

(五十嵐) 富岩運河環水公園の魅力について、どのような認識を持ち、更なる魅力向上にどう取り組んでいくのか。

(新田知事) 富岩運河環水公園は駅近くの貴重な水辺空間であり、泉と滝の広場や天門橋、スターバックスなどを中心に県内外の多くの方に親しまれている。北陸新幹線の開業や富山県美術館の開館などにより、近年では県内で最も利用者の多い観光地となっているほか、周辺には飲食店等が増えてきており、賑わいの核になりつつある。

更なる魅力向上の取り組みとして、例えば、公園北側のお花見広場は、老朽化した桜の木などが密集し、利用者も少ない状況にあることから、周辺の飲食店利用者も立ち入りやすいオープンなお花見空間となるよう、桜の植替えやベンチなど休憩施設の整備を行う予定としている。

また、今年度は、新型コロナウイルスの影響から例年の花火イベントなどの開催ができなかったが、冬場の憩いの空間として光のオブジェを12月19日から約2か月設置したところ、大雪が続いたにもかかわらず、多くの来園者が写真を撮る姿が見られたり、SNSでも「綺麗」や「おしゃれ」などのコメントと写真を数多く発信していただき、大変好評だった。

新年度も、コロナの感染防止対策を徹底しつつ、近年人気が高まっているキャンプを楽しめるイベントやシャボン玉を使ったライトアップイベントの開催を予定している。

今後とも、公園の再整備や各種イベントの開催など、ハードとソフトの両面から魅力向上の取り組みを進めてまいりたい。

(五十嵐) 富山駅北側一帯の賑わいづくりを一体的に創出していくため、イベントや整備等での駅北一帯の施設管理者や事業者等との連携にどう取り組むのか。

(新田知事) 富山駅北地区は、これまで、とやま都市MIRAI計画に基づき、環水公園やオーバードホール、プールバールのほか、地元企業の本社ビルやホテルの立地など、官民一体となって整備を進め、富山駅周辺に相応しい都市空間が形成されてきた。



昨年3月には駅南北の路面電車が接続するなど南北一体となったまちづくりに取り組んでいる。また、市では、今後プールバールの再整備も計画されている。

今年度は、駅北周辺店舗の活動を伝える映像「商店街のセナカ」の特設HPでの公開、富岩水上线と岩瀬地区の店舗が相互に広報や割引サービスを行う協定の締結などに取り組む。

県としては、駅北周辺で富山市の行う整備への支援について富山市と連携して国に働きかけていくとともに、環水公園でのイベントなどを通じて駅北の事業者の皆さんと連携するなど、今後とも富山駅北側一帯の一体的な賑わいづくりに取り組んでまいりたい。

県政に対するご意見をお寄せ下さい。  
E-mail: [tmw\\_50@tam.ne.jp](mailto:tmw_50@tam.ne.jp)

事務所/〒930-0801 富山市中島3-7-20 佐竹ビル1F  
TEL076-441-4141 FAX076-445-1882



# つとむ通信

令和3年

春号

第67号

発行人/富山県議会自民党議員会 五十嵐 務

## ご挨拶

富山県議会議員 五十嵐 務

皆様にはますます御健勝のこととお慶び申し上げます。

令和3年度予算などを審議する2月定例会が、3月24日で閉会しました。

最終日には正副議長選挙が行われ、私が第129代議長に就任しました。今後ともよろしく願い申し上げます。

現在、我が国においては、国・地方を通じて引き続き厳しい財政状況にあるなかで、新型コロナウイルス感染症対策をはじめ、少子化対策、国土強靱化の推進、グリーン社会の実現など、多くの課題への迅速な対応が求められています。

一方、富山県においては、県民の長年の悲願であった北陸新幹線の開業から6年が経過しましたが、コロナ禍による影響を受け、開業6年目の利用者が前年比65%の減となるなど厳しい状況となっています。

アフターコロナ、ビヨンドコロナを見据え、県民の皆様と一丸となり、観光振興や産業・地域活性化、魅力あるまちづくりなどの取り組みを着実に進め、富山県の更なる飛躍と発展に繋げて行かなければなりません。

令和3年度は、引き続き重要課題である新型コロナウイルスの感染防止対策と大きな影響を受けている地域経済の支援を的確に行いながら、県として、ベンチャー企業支援、UIターン・移住支援などに取り組むこととなりますが、県議会としてもしっかりと支援するとともに、今後とも県民が豊かさを実感できる富山県を築くため、本県の有する可能性や魅力を存分に引き出す施策を進めることに全力を傾けていきたいと思っております。

二元代表制の一翼を担う県議会としては、知事その他の執行機関と常に緊張感のある関係を保ちながら、議決機関あるいは監視機関として、県議会での議論がこれまで以上に活発化するよう努力してまいりたいと考えています。

県民の皆様の声に真摯に耳を傾け、幅広い意見を議会活動に反映させ、スピード感を持って機能的な議会活動に努め、議会機能の強化・拡充に努めてまいりますので、今後ともより一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

(県議会の役職)

富山県議会議長、スポーツ振興議員連盟会長  
医療問題調査会会長、業業問題調査会会長

(所属委員会)

経営企画委員会、感染症等対策特別委員会

▶ **新田県政になって初めての当初予算を審議する2月定例会が2月26日から3月24日まで開かれました。一般質問に立ち、公共交通の整備拡充や富山駅北地区の賑わいづくりなどについて質問しました**



(五十嵐) 本県の充実した鉄軌道ネットワークをはじめとした公共交通は、日本一の便利さとも指摘され、富山の宝であると言えるが、全国のモデルとなるべくさらに進化させるため、整備拡充にどのように取り組んでいくのか。

(新田知事) 公共交通は、県民や来県者にとって大切な移動手段であり、今後の高齢化社会や、車に依存しない生活様式なども見据え

た整備を進めていくことが重要であると認識している。また、本年1月の大雪に係る交通対策検証会議において、有識者の方から、災害時には自動車の使用を避けるべきとのご提言もあり、公共交通の重要性が再認識されたところ。県としては、鉄軌道を中心に、バス等の公共交通の接続を考慮した交通網の整備を進めていくことは、誰もが使いやすく、わかりやすい、持続可能な地域公共交通のために重要と考えている。



(五十嵐) 富山地方鉄道本線の高架化の完成までのスケジュールはどうか、また、事業に対する富山地方鉄道の負担はどのようになっているのか。

(新田知事) 令和元年に事業着手した富山地方鉄道本線の高架化については、現在、鉄道線を南側に切換えるための仮線設置工事を進めている。これに3年程度、その後高架橋本体工事に4年程度かかると見込んでおり、令和8年度までの完成を目指している。

全体事業費は約124億円で、富山地方鉄道の負担割合は5パーセント、負担額は約6億円となる。このうち、約1億5,000万円は地鉄が高架下を駐車場とした場合の受益と見込み、受益を超える負担については、経営の圧迫による地域公共交通のサービス低下が生じないように、経営安定化のため県と市が同額の支援を行う。

なお、受益見込額約1億5,000万円については県と市が同額の無利子貸付を行うこととしている。



地鉄高架化事業は、富山駅周辺の南北一体化を進めるうえで重要な事業であることから、関係機関と連携・協力し、地元の理解を得ながら早期完成に努めてまいりたい。

(五十嵐) あいの風とやま鉄道の富山駅－東富山駅間の新駅となる「新富山口駅」について、駅舎の工事等の進捗状況はどうか。

(中谷観光・交通振興局長) あいの風とやま鉄道富山駅－東富山駅間の新駅「新富山口駅」については、昨年1月に着工し、本年10月の開業を目指して工事が進められてきたが、新型コロナウイルスの影響により、工期が半年程度延長されているところ。

あいの風とやま鉄道では、現在は、駅舎やホームの基礎工事を進めているところであり、今後、駅舎やホーム上屋、跨線橋及びエレベーター設置等の工事を行うとともに、運行システムの改修など、来年春のダイヤ改正に間に合うよう、開業に向けた準備を着実に進めていきたいと聞いており、県も富山市と連携して、引き続き支援してまいりたい。



(五十嵐) 富山駅－東富山駅間の新駅となる「新富山口駅」について、アクセス道路等の整備の進捗状況はどうか。



(江端土木部長) 県道富山大沢野線から「新富山口駅」へのアクセス道路となる都市計画道路富山新駅停車場線については、令和元年度から事業を行っており、現在、用地取得がほぼ完了し、新駅開業までの完成を目指し工事を進めている。

新駅から国道8号方面へのアクセス道路については、売却した旧県有地内の約500mの区間



は土地を取得した民間事業者が整備し、これに続く約270mの区間は県が整備することとしている。県が整備する区間については、国道8号豊田新屋立体事業の整備計画を踏まえる必要があることから、これまで国と調整してきたところであり、来年度は詳細な設計を行う予定としている。